



かけはし



文責：小倉

ようこそ不知火小へ

～令和6年度不知火小入学式～

新緑が美しい4月9日（火）、52名のかわいい1年生が不知火小学校に入学しました。ちょっと緊張気味の1年生でしたが、背筋をピンと伸ばして話を聞く姿に、「これからの小学校生活を頑張るぞ！」という意気込みが伝わってきました。



校長式辞では、「元気なあいさつ」と「お話を聞くこと」の2つを頑張ろうという話をしました。人生の節目に志を立てることに、早すぎることはありません。是非御家庭でも、小学校になって頑張ることについて話題にされてみてください。

これからの義務教育9年間、子供たちは、いずれ旅立つ実社会に向けて、学校において様々な体験を積み重ねていきます。

保護者の皆様、そして地域の皆様には、是非子供たちの頑張りを、温かく見守り、そして支えていただくようお願いいたします。

当時の人々の思いに ～平成28年熊本地震～

4月14日と16日は、熊本に生活する私たちにとって忘れられない、忘れてはならない日です。平成28年熊本地震は、熊本に大きな爪痕を残しました。

不知火小学校は、南校舎の支柱がおおきなダメージを受け、不知火小学校の半分の教室が使用できなくなりました。それでも当時の先生方は、「子供たちの学びをとめない！」という思いを胸に、知恵を出し合いながら学校再開に向け努力を続けられました。自宅の復旧を後回しにした先生方も少なくない状況の中での努力でした。

また、地域の方々や全国からの応援や支えもありました。散乱した図書室の本の整理を申し出てくれた近所の大学生。「昼ご飯にしてください。」と、おにぎりをたくさん差し入れてくださったお母さん。学校に張り付いて、支援の方策を必死に考えてくださった宇城市役所の方。子供たちに無料の出前講座を申し出ていただいた企業の方。全国からは、多くの寄付金の申し出もありました。結果、宇城で最も被害が大きかった学校にもかかわらず、宇城で一番早く学校再開を決定しました。仮設校舎の建設も、熊本で一番早かったと聞いています。



今、私たちは、新しい校舎や体育館の中で、のびのびと学んだり遊んだりできています。地震発生時には、まだ生を受けていない子供たちも多くなり、熊本地震の記憶も薄れてきています。ですが、当時熊本が不知火が体験したこの地震と、それを当時の人々が、どんな思いで、どうやって乗り越えてきたのかをしっかりと学び、その思いと共に、次の世代に伝えていかなければならないと感じています。

オンラインでしたが、全校で平成28年熊本地震を振り返り、当時の人々の思いや努力に思いを馳せました。